

# 自らコミュニケーションを図ろうとする意欲をはぐくむ 外国語活動の工夫

—『外国人に自分の市と学校を伝えよう』の活動における  
「対話チャレンジシート」の作成・活用を通して—

小学校外国語活動班 中島 美樹(小学校教諭)

ゲームは好き!

チャンツは  
楽しい!

## 児童の実態

人前で話すことに苦手意識をもっている。

恥ずかしい

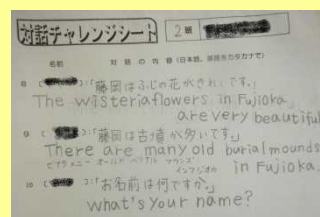
上手に話せない

### ふれる過程 : 意欲をもつ

藤岡市には、古墳  
が多いことを  
伝えたいね!

自分の市や学校について、鎌倉や外国との相違点・類似点から外国人に伝えたいことを個人やグループで考えることで、伝えたいことを明確にする。

「対話チャレンジシート」



### 慣れる過程 : 自信をつける

ちょっと恥ずかしいけど、  
何とか言えた。

伝えたいことや聞きたいことを「対話チャレンジシート」を作成してシナリオ化し、それを活用して役割演技や複数のALTと繰り返し対話できるようにする。

ALTとの対話練習



### 深める過程 : 達成感を味わう

伝えられて  
よかった!

修学旅行での外国人との対話場面を再現する発表の場を設け、「対話チャレンジシート」を基に感想や意見の交流を行う。

再現発表会



「もっと英語で話してみたい」と思う児童が増えました。

## 成果

- 自分の市や学校という身近な題材をテーマに伝える活動を計画したことにより、児童の「伝えたい」という意欲を高めることができました。
- 「対話チャレンジシート」を基に役割分担して練習したり、複数のALTとの対話体験の機会をもったりしたことで、児童は外国語での対話を通して、「伝えられた」「分かった」という達成感を味わい、自らコミュニケーションを図ろうとする意欲をはぐくむことにつながりました。

## 課題

- 「対話チャレンジシート」を作成する段階で、既習の表現だけでは外国人と対話が成立しないことが分かった児童が多かった。必要な表現を5年次から計画的に年間指導計画に組み込み、6年次の児童の負担が少なくなるようにしていく必要があります。
- 今回のような大単元だけでなく、日々の授業の中にも、児童が伝えたいことを伝えたり、友達の話を聞いたりする場面を意図的に設定し、対話することに慣れ、自信をもたせていく必要があります。